

公立小松大学

アカデミック リーダーズ セミナー

全6回
シリーズ

理事長・学長・副学長・学長補佐による

6回シリーズの特別講座です。

文理の垣根を超え、様々な角度から楽しく考察します。



要申込 参加無料

開催日時

2025年

6回シリーズ

8月・9月

14:00~15:30

会場

公立小松大学
中央キャンパス

石川県小松市土居原町10番地10

募集人数

先着 50名

申込締切

7月末日

申し込みは
こちら



第1回

8月2日土

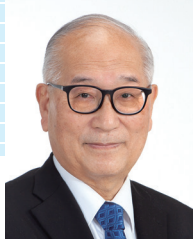
テーマ

理事長の雑学

①歌舞伎を楽しむ

公立小松大学 理事長

石田 寛人 Hiroto Ishida



講演要旨

歌舞伎は、長い間にわたる先人の叡智の集積であり、この世を生きる人間の楽しさと苦しさ、喜びと悲しみが集約されていて、実に学ぶところの多い演劇と思っています。歌舞伎で最も愛好されている「仮名手本忠臣蔵」(今年のお祭りりで龍助町が上演した演目『土屋主税』は、これに関連する芝居です)と、小松での出来事を題材にしながら、全国的に人気の高い「勧進帳」を取り上げて、歌舞伎の醍醐味をみなさんとともに味わいたいと思います。

プロフィール

1941年東京生まれ(父は加賀市、母は小松市出身で母方の姓を継ぐ)。1964年東京大学工学部原子力工学科卒業。同年科学技術庁入庁。在米大使館参事官、原子力局長等を経て1995年事務次官。1999年駐チェコ日本国大使。2003年退官後、東京大学客員教授、金沢学院大学学長を務め2018年より現職。前田育徳会理事長、関東大小松会会長、石川県人会会長(全国連合会長兼務)等を務める。

第2回

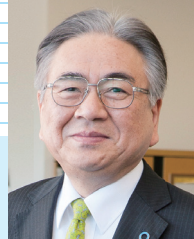
8月9日土

テーマ

北陸の医の歴史

公立小松大学 学長

山本 博 Hiroshi Yamamoto



講演要旨

医学はインドや中国で起こり、海を渡って日本へ。わが国で最初に病院をつくったのは聖徳太子。薬局に相当する「施薬院(やくいん)」、貧しい人や身寄りのない人を救済する「悲田院」、修養を行う「敬田院」も太子によってつくられました。幕末までは漢方が主流でしたが、種痘の伝来とともにオランダ医学が普及。明治に入るとドイツ医学が導入されましたが、第一次世界大戦でドイツが敗れると日本の医学はやや混迷。そんな中、「世界の金沢医学」を唱え、日本医学を領導した一人が小松市出身の岡本肇先生でした。本講演では、このような医学の歴史を紹介します。

プロフィール

1949年石川県小松市生まれ。高校生の頃は文学、音楽の道を志望していたが、自分には力が及ばないと感じ、比較的面白そうに見えた医学の道に進む。医者として尽力するものの、がん患者を治せぬまま見送らなければならなかった無力感から研究の道に入る。



第3回

8月23日土



テーマ

支えあい社会を実現する
ピア・サポート

公立小松大学 副学長(教育担当)

志村 恵 Megumi Shimura



講演要旨

「ピア」は、英語のペアと同根の語源を持ち、「同じような」「等しい」という意味で、「ピア・サポート」とは、同じ立場の人同士による支え合いの活動を表します。ピア・サポートは、世界中で行われ、日本でも障がいのある方々や難病の方々、あるいは学校などで、いろいろなかたちで実践されています。今回は、ドイツで行われている外国ルーツの市民によるピア・サポート活動と、多胎家庭支援でなされているピア・サポート活動を紹介しながら、支え合う社会について共に考えたいと思います。

プロフィール

1957年高知県生まれ。名古屋大学とドイツ・ミュンヘン大学で学ぶ。2024年4月より当大学勤務。専門はドイツ学、キリスト教学、多胎家庭支援研究。現在は、外国をルーツに持つ市民によるピア・サポート活動や多胎家庭のピア・サポートの実践的研究を行う。

第4回

8月30日土



テーマ

地球システムと
地熱エネルギー

公立小松大学 副学長(研究担当) 兼 研究科長

木村 繁男 Shigeo Kimura



講演要旨

純国産のエネルギーである地熱エネルギーは、再生可能エネルギーの一つであり、その賦存量はアメリカ、インドネシアに次いで世界第3位といわれています。そのエネルギーを100%利用すれば、日本の電力の30%を賄うことができるが、地熱発電が占める割合は、国内全発電量のわずか0.3%。さらに、この数値は過去30年間ほとんど変化していません。国はこれを1%にするという目標を設定しましたが、その実現はまだ不透明な状況です。ここでは、地球の構造と地熱エネルギーの起源について説明し、その利用の現状と今後の可能性や課題を紹介します。

プロフィール

機械工学専攻において、「浮力による流動現象」(自然対流)に関する研究で学位取得後、UCLAの地球・惑星科学科でPostdocの経験を持つ。その時に耳にしたマントル対流や大気・海洋などの流動解析に触発される。産業技術総合研究所と金沢大学で地熱開発を研究に携わり、当大学では「地球環境と環境流体」などの授業を担当。

第5回

9月6日土



テーマ

スポーツ現場で本当にあった
(タメになる) 怖い話ー健康心理学・犯罪心理学の
視点からの解説と教訓ー

公立小松大学 学長補佐(研究担当)

高木 祐介 Yusuke Takagi



講演要旨

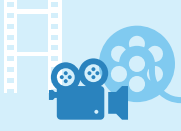
スポーツは、明るく、元気になる話題が多いです。その一方で、指導者による心理的支配、ドーピング、摂食障害、山での遭難など、人々に不安や恐怖を与えるような事例も多数あります。それらは、「知識があれば」「勇気があれば」「誰かとつながっていれば」防げたものばかりです。本講演では、一人で抱え込まず、誰かに相談して選択肢を広げることの大切さについて、健康心理学と犯罪心理学の視点から解説・提案します。スポーツを楽しく、嬉しく続けていくために、皆さんと一緒に教訓を学びたいと思っています。

プロフィール

静岡県浜松市生まれ。東京学芸大学卒業。広島大学大学院、川崎医療福祉大学大学院、日本学術振興会特別研究員を経て現職。博士号(健康科学)、公認心理師、教員免許(保健体育・社会・家庭)を保有。研究テーマは身体活動時にみられる喘息発作・熱中症・自覚症状や急性高山病等の予防、アスリートへの食育指導、健康心理相談。

第6回

9月20日土



テーマ

映画研究入門

ー映画経験を豊かに

公立小松大学 学長補佐(教育・国際交流担当)

小原 文衛 Bunei Kohara



講演要旨

「映画研究」は、そもそも学問として成立するのかと問いたくなる方もおられると思いますが、本講座では、娯楽・アトラクションでもある映画を真面目に研究する「映画研究」という学問の基礎的な考え方を紹介します。映画研究によって、どのようなことが明らかになるのかを示し、映画研究が持つ学術的な意義を探ります。この研究を知ること、少しでも皆様の映画経験が豊かになればと思います。

プロフィール

専門は映画研究。金沢大学大学院人間社会環境研究科にて博士(文学)取得。当大学国際文化交流学部にて映画研究、英語の教育に携わる。アメリカ映画を主たる対象として、映画史、映像理論、映画の精神分析などの研究。近年は『ゴジラ』(1954年)のアメリカ社会・文化における受容問題を映像・視覚理論の立場から考察する。